

専門領域

<基礎理学療法学>

科目名	基礎理学療法学					
授業形態（単位(時間)数)	講義（2 単位(30h)）＋実習（2 単位(60h)）＋自己学習(90h)					
一般目標：理学療法の基盤となる広義の領域を幅広く学習し、効果的な理学療法を可能とする背景や根拠を理解する。そのため、①理学療法を科学的に説明・理解するために必要な要素、②理学療法の臨床思考過程の規範や根拠となる要素、③広義の運動障害に対する評価や治療に必要な要素、を習得する。						
授業内学習項目	時間数		到達レベル			
	講義	演習 ・ 実習	キーワー ド認識レ ベル	知識獲得 レベル	臨床実習 要補助レ ベル	臨床実習 見守りレ ベル
1) 理学療法の概要・歴史・理念	2		○			
2) 理学療法に求められる倫理と哲学	2		○			
3) 理学療法関連法規・諸制度	2			○		
4) 理学療法過程	2			○		
5) チーム医療と関連職種	2			○		
6) 管理・運営とリスクマネジメント	2			○		
7) 職能団体・協会と役割	2		○			
8) 理学療法士の養成課程	2		○			
9) 理学療法の研究領域と研究方法	2		○			
10) EBPT・リーズニング	2		○			
11) 理学療法体系 運動療法	2	2		○		
12) 物理療法	2	2		○		
13) 義肢装具	2	2		○		
14) 日常生活活動	2	2		○		
15) 地域理学療法	2	2		○		
16) 運動学実習 生体力学・関節運動		6		○		
17) 生体観察・触診・計測		6		○		
18) 筋力・持久力・疲労		4		○		
19) 姿勢・歩行		4		○		
20) 協調運動・運動技能		4		○		
21) 動作・作業工程分析		4		○		
22) 運動発達		4		○		
23) 運動学的分析		8		○		
24) 痛みの病態メカニズム 急性痛の病態と発生メカニズム 慢性痛の病態と発生メカニズム		2		○		
25) 関節可動域制限の病態メカニズム 関節周囲組織の伸張性のメカニズム 骨格筋に由来した拘縮の病態と発生メカニズム 関節構成体に由来した拘縮の病態と発生メカニズム 筋収縮と関節可動域制限		2		○		
26) 筋力低下の病態メカニズム 廃用性筋萎縮の病態と発生メカニズム		2		○		

サルコペニア（加齢性骨格筋減少症） の病態と発生メカニズム						
27) 創傷，靱帯損傷治癒のメカニズム 筋細胞の壊死と再生のメカニズム		2		○		
28) 脳の可塑性と運動・動作障害 運動学習の科学的基盤		2		○		
自己学習項目で特記すべきもの	到達レベル					
	キーワー ド認識レ ベル	知識獲得 レベル	臨床実習 要補助レ ベル	臨床実習 見守りレ ベル		
1) なし						

科目名	理学療法基礎評価学					
授業形態（単位(時間)数)	講義（1 単位(15h)）＋実習（2 単位(60h)）＋自己学習(60h)					
一般目標：理学療法評価の意義を理解し，特定の疾患に限らず広範に用いられる理学療法評価の基本的な検査・測定手技および評価の記載方法を習得する。						
授業内学習項目	時間数		到達レベル			
	講義	演習 ・ 実習	キーワー ド認識レ ベル	知識獲得 レベル	臨床実習 要補助レ ベル	臨床実習 見守りレ ベル
1) 理学療法評価の意義と目的	1			○		
2) 理学療法評価の対象と評価計画	2					○
3) 情報収集	1					○
4) 医療面接	2	4				○
5) 血圧，心拍数，呼吸数測定		2				○
6) 四肢長・周径測定		8				○
7) 関節可動域測定		12				○
8) 深部反射，病的反射検査		2				○
9) 筋緊張検査		2				○
10) 表在・深部覚検査		4				○
11) Daniels らの徒手筋力検査		20				○
12) バランス検査		2			○	
13) Barthel Index, FIM	2			○		
14) 痛みの評価	0.5			○		
15) 意識障害尺度	0.5			○		
16) 検査測定結果の統合と解釈	2			○		
17) 評価の記録	4	4				○
自己学習項目で特記すべきもの			到達レベル			
			キーワー ド認識レ ベル	知識獲得 レベル	臨床実習 要補助レ ベル	臨床実習 見守りレ ベル
1) なし						
＜備考＞ 臨床での使用が一般化されている検査測定については名称を記載したが，特に記載のない項目は，臨床重要と考えられるものを選択して教授する。						

科目名	理学療法基礎治療学					
授業形態（単位(時間)数)	講義（1 単位(15h)）＋実習（2 単位(60h)）＋自己学習(60h)					
一般目標：特定の疾患に限らず広範に用いられる運動療法，物理療法，補装具療法の方法を理解し，基本的な手技をを習得する。なお，切断と義肢に関する基本的な知識もこの科目における学習内容とする。						
授業内学習項目	時間数		到達レベル			
	講義	演習 ・ 実習	キーワー ド認識レ ベル	知識獲得 レベル	臨床実習 要補助レ ベル	臨床実習 見守りレ ベル
1) 運動療法の意義と目的	1			○		
2) 関節可動域運動		8				○
3) 筋力増強運動		8				○
4) 持久力トレーニング		4				○
5) 運動学習	2					○
6) 起居動作練習		8				○
7) バランス改善運動		4			○	
8) 立位・歩行練習		4			○	
9) 移乗動作練習		4			○	
10) 物理療法の意義と目的	1			○		
11) 温熱療法，寒冷療法		2				○
12) 電氣的治療法		2			○	
13) 牽引療法		2			○	
14) 水治療法		2			○	
15) 補装具療法の意義と目的	1			○		
16) 体幹，上肢，下肢装具	4	4			○	
17) 車いす	2	4			○	
18) 切断と義肢	4	4		○		
自己学習項目で特記すべきもの			到達レベル			
			キーワー ド認識レ ベル	知識獲得 レベル	臨床実習 要補助レ ベル	臨床実習 見守りレ ベル
1) なし						

科目名	骨関節障害理学療法学						
授業形態（単位(時間)数)	講義（3 単位(45)）＋実習（2 単位(60h)）＋自己学習(120h)						
一般目標：各種整形外科疾患の疾患特性や治療・回復過程に合わせた理学療法評価および治療について学ぶ。							
授業内学習項目	時間数		到達レベル				
	講義	演習・実習	キーワード認識レベル	知識獲得レベル	臨床実習要補助レベル	臨床実習見守りレベル	
1) 変形性関節症 ① 理学療法評価（意義・目的・方法） ② 画像所見（X 線） ③ 人工関節置換術後のリスク管理 ④ 目標設定，予後予測 ⑤ 保存療法ならびに手術療法後の理学療法 a. 機能改善 b. 基本動作・移動動作練習 c. ADL 指導	5	6					
						○	
				○			
						○	
						○	
						○	
2) 骨折（大腿骨頸部骨折・その他） ① 理学療法評価（意義・目的・方法） ② 画像所見（X 線） ③ 術後のリスク管理 ④ 目標設定，予後予測 ⑤ 術後理学療法 a. 機能改善 b. 基本動作・移動動作練習 c. ADL 指導	5	6					
						○	
				○			
						○	
						○	
						○	
3) 関節リウマチ ① 理学療法評価（意義・目的・方法） ② 画像所見 (X 線)，生化学データ，薬物療法 ③ 関節リウマチの進行度（Steinbrocker）活動性（Lansbury 指数），機能障害度（class） ④ 目標設定，予後予測 ⑤ 理学療法 a. 機能改善 b. 基本動作・移動動作練習 c. ADL 指導 d. 補装具療法（自助具含む）	4	6					
						○	
				○			
				○			
						○	
						○	
4) 脊椎疾患（腰痛，頸部痛を含む） ① 理学療法評価（意義・目的・方法） ② 画像所見（X 線，MRI）	4	6					
						○	
				○			

③ 神経学的検査の実施 ④ 目標設定, 予後予測 ⑤ 保存療法ならびに手術療法後の理学療法 a. 疼痛緩和 b. 運動療法 c. 基本動作練習 d. ADL 指導 (再発予防)					○	
					○	
					○	
5) 脊髄損傷 ① 理学療法評価 (意義・目的・方法) ② 画像所見 (X 線, CT, MRI) ③ 神経学的分類基準 (ASIA, Zancolli) ④ 目標設定, 予後予測 ⑤ 理学療法 a. 急性期の管理 b. 自律神経障害の理解 c. 機能改善 d. 基本動作練習 e. 車いす操作 f. ADL 指導 g. 合併症に対する自己管理	8	6				
					○	
				○		
					○	
					○	
					○	
					○	
6) スポーツ傷害 (外傷・障害) ① 代表的なスポーツ傷害 (靱帯損傷, 半月板損傷, 野球肩, テニス肘など) に対する理学療法評価 ② 保存療法ならびに手術療法後の運動療法 ③ 装具の適用	5	6				
					○	
					○	
					○	
7) 切断 ① 術前理学療法 ② 術後の断端管理 ③ 義肢装着前理学療法 ④ 義肢装着練習 ⑤ 自己管理	4	6				
					○	
					○	
					○	
					○	
					○	
8) 肩関節疾患 (肩関節周囲炎, 腱板損傷) ① 理学療法評価 (意義・目的・方法) ② 疼痛緩和 ③ 運動療法 ④ ホームプログラムの指導 ⑤ 二次的合併症の予防 ⑥ 術後のリスク管理	4	6				
					○	
					○	
					○	
					○	
					○	
					○	
9) 絞扼性末梢神経障害の理学療法	2	4			○	
10) 慢性疼痛疾患 ① 頸肩腕症候群の理学療法	2	4				
					○	

②反射性交感神経性ジストロフィー の理学療法					○	
11) 骨壊死性疾患（大腿骨頭壊死など） の理学療法	2	4			○	
自己学習項目で特記すべきもの			到達レベル			
			キーワー ド認識レ ベル	知識獲得 レベル	臨床実習 要補助レ ベル	臨床実習 見守りレ ベル
1) なし						

科目名	神経障害理学療法学						
授業形態（単位(時間)数)	講義(3 単位(45h))＋実習(2 単位(60h))＋自己学習(120h)						
一般目標：神経障害を生じる代表的疾患に対する基本的な理学療法の進め方（一般的評価，理学療法の目的ならびに具体的方法，リスク管理）について学ぶ。							
授業内学習項目	時間数		到達レベル				
	講義	演習 ・ 実習	キーワー ド認識レ ベル	知識獲得 レベル	臨床実習 要補助レ ベル	臨床実習 見守りレ ベル	
1) 脳血管障害	8	12					
①理学療法評価（意義・目的・方法）					○		
a. Brunnstrom Stage, Motoricity Index							
b. Modified Ashworth Scale							
c. SIAS							
d. Fugl-Meyer Assessment							
e. 高次脳機能							
f. FIM, Barthel Index							
②脳画像所見（CT, MRI）						○	
③目標設定・予後予測						○	
④理学療法(急性期・回復期・維持期)						○	
a. リスク管理						○	
b. 機能改善（関節可動域，筋力，随意運動）							
c. 補装具療法							
c. 基本動作練習							
d. ADL 指導							
2) パーキンソン病	5	8					
①理学療法評価(意義・目的・方法)					○		
a. Hoehn&Yahr の重症度分類							
②目標設定・予後予測					○		
③理学療法					○		
a. 機能改善（関節可動域，筋力，バランス）							
b. 基本動作練習							
c. ADL 指導							
3) 脊髄小脳変性症・多系統萎縮症	5	8					
①理学療法評価(意義・目的・方法)					○		
a. 重症度（進行度）							
b. 自律神経症状							
②目標設定・予後予測					○		
③理学療法					○		
a. 機能改善（関節可動域，筋力，バランス，フレンケル運動，PNF（リズムミックスタビリゼーション，ダイナミック・リバーサル），重錘負荷，弾性緊迫帯							
b. 基本動作練習							
c. ADL 指導							

4) 頭部外傷 ①理学療法評価（意義・目的・方法） a. 意識レベル（Glasgow coma scale, Japan coma scale） b. 高次脳機能 ②脳画像所見（CT, MRI） ③目標設定・予後予測 ④理学療法 a. 機能改善（関節可動域，筋力，随意運動） b. 基本動作練習 c. ADL 指導	5	4				
					○	
					○	
					○	
					○	
5) 筋ジストロフィー症 ①理学療法評価（意義・目的・方法） a. 進行度 b. 厚生省特定疾患研究班による機能障害分類 ②目標設定・予後予測 ③理学療法 a. 機能改善（関節可動域，筋力） b. 基本動作練習 c. ADL 指導 d. 補装具療法 e. リスク管理（過用症候群等）	3	4				
					○	
					○	
					○	
6) 筋萎縮性側索硬化症 ①理学療法評価（意義・目的・方法） a. 重症度（進行度） ・ Noris scale ・ 厚生省特定疾患研究班による重症度分類 b. 上位ニューロン徴候 c. 下位ニューロン徴候 ②目標設定・予後予測 ③理学療法 a. 機能改善（関節可動域，筋力） b. 基本動作練習 c. ADL 指導	3	4				
					○	
					○	
					○	
7) 多発性硬化症 ①理学療法評価（意義・目的・方法） a. 重症度（進行度）（Kurtzke の評価） b. 薬物療法，生化学検査 ②目標設定・予後予測 ③理学療法 a. 機能改善（関節可動域，筋力） b. 基本動作練習 c. ADL 指導 f. リスク管理（ステロイド剤の長期使用による副作用）	3	4				
					○	
					○	
					○	

8) 多発神経炎・ニューロパチー （ギラン・バレー症候群等） ①理学療法評価（意義・目的・方法） a. 重症度（進行度） b. 薬物療法，生化学検査 ②目標設定・予後予測 ③理学療法 a.機能改善（関節可動域，筋力） b.基本動作練習 c.ADL 指導 e. リスク管理（過用症候群等）	3	4				
					○	
					○	
					○	
9) 末梢神経損傷（腕神経叢損傷・絞扼性末梢神経損傷） ①理学療法評価（意義・目的・方法） a. 神経損傷の程度（重症度） b. 電気診断学的検査 ②目標設定・予後予測 ③理学療法 a.機能改善（関節可動域，筋力） b.基本動作練習 c.ADL 指導	5	4				
					○	
					○	
					○	
10) 脳性麻痺 ①理学療法評価（意義・目的・方法） a. 運動発達検査 b. 姿勢反射・反応 c. 姿勢・運動パターン ②目標設定・予後予測 ③理学療法 a. 機能改善（関節可動域，筋力） b. 基本動作練習 c. ADL 指導 d. 補装具療法	5	8				
					○	
					○	
					○	
自己学習項目で特記すべきもの			到達レベル			
			キーワード認識レベル	知識獲得レベル	臨床実習要補助レベル	臨床実習見守りレベル
1) なし						

科目名	内部障害理学療法学					
授業形態（単位(時間)数)	講義(3 単位(45h))＋実習(2 単位(60h))＋自己学習(120h)					
一般目標：呼吸・循環系，代謝系を中心とする内部障害に対する理学療法を行うための基本的な知識と方法論を習得する。呼吸のメカニズム，呼吸器疾患・循環器疾患の病態，呼吸・心臓リハビリテーションの意義やチームアプローチについて理解する。						
授業内学習項目	時間数		到達レベル			
	講義	演習 ・ 実習	キーワード認識レベル	知識獲得レベル	臨床実習要補助レベル	臨床実習見守りレベル
<呼吸>						
1) 呼吸器の構造と呼吸調節機能	1.5					
① 肺葉とセグメント				○		
② 肺泡構造と循環器との関連				○		
③ 呼吸調節機能のメカニズム				○		
2) 各種呼吸器疾患と理学療法	2.5	8				
① 慢性閉塞性肺疾患（肺気腫，慢性気管支炎）					○	
a. 疾患の特徴と治療法						
b. 画像所見（X線，CT，MRI）						
c. 理学療法（呼吸指導，ADL指導）						
② 気管支喘息					○	
a. 疾患の特徴と治療法						
b. 画像所見（X線，CT，MRI）						
c. 理学療法（呼吸指導，ADL指導）						
③ 肺水腫					○	
a. 疾患の特徴と治療法						
b. 画像所見（X線，CT，MRI）						
c. 理学療法（呼吸指導，ADL指導）						
④ 肺炎（間質性肺炎を含む）					○	
a. 疾患の特徴と治療法						
b. 画像所見（X線，CT，MRI）						
c. 理学療法（呼吸指導，ADL指導）						
⑤ 肺結核					○	
a. 疾患の特徴と治療法						
b. 画像所見（X線，CT，MRI）						
c. 理学療法（呼吸指導，ADL指導）						
⑥ 肺癌					○	
a. 疾患の特徴と治療法						
b. 画像所見（X線，CT，MRI）						
c. 術前・術後の理学療法						
⑦ 睡眠時無呼吸症候群					○	
a. 疾患の特徴と治療法						
b. 理学療法（ADL指導）						

3) 呼吸機能評価の意義と方法 ① スパイロメトリー ② 肺気量分画 ③ フローボリューム曲線 ④ 呼吸困難度（ヒュージョンズ [®] ，MRC） ⑤ 視診，触診，聴診，打診 ⑥ 心電図（呼吸との関連）	2	6				
						○
						○
						○
						○
					○	
					○	
4) 呼吸機能検査 ① 運動負荷試験 a. Ramp 法 b. Bruce 法 c. 6 分間歩行 d. Anaerobic Threshold (AT) ② 肺音の聴取 聴診器の扱い方と聴取法 ③ 血液ガスと呼吸機能 a. PaO ₂ の意味と正常値 b. PaCO ₂ の意味と正常値 c. SaO ₂ の意味と正常値 d. pH の意味と正常値 e. アシドーシスとアルカローシス	3.5	4			○	
						○
				○		
5) 呼吸介助法 ① 体位排痰法 ② 胸郭体操 ③ 徒手呼吸介助法	2	5				
					○	
					○	
					○	
6) 人工呼吸管理と理学療法 ① 呼吸器の種類と換気モード ② 呼吸器の問題点と理学療法	1.5			○		
				○		
7) 気道内分泌物吸引法	1	1		○		
8) 包括的呼吸リハビリテーション	0.5			○		
9) 在宅酸素療法	0.5			○		
<循環>						
1) 心臓リハビリテーションの目的，効果，歴史，対象疾患	1			○		
2) 虚血性心疾患（狭心症，心筋梗塞） ① 理学療法評価 ② 医学的所見（心電図，生化学，心臓カテーテル），治療（経皮的冠動脈形成術，冠動脈バイパス術，薬物療法） ③ 理学療法 a. 運動療法（運動負荷，中止基準，バイパス術後急性期の運動療法） b. ADL 指導 c. 運動指導	2	4				
					○	
				○		
					○	

3) 慢性心不全 ① 理学療法評価 ② 医学的所見（胸部 X 線，心エコー検査，生化学（BNP），NYHA 分類），薬物療法と運動への影響 ③ 理学療法 a.運動療法（運動負荷，中止基準） b.ADL 指導 c.運動指導	2	2				
					○	
				○		
					○	
4) 大血管疾患（動脈瘤，大動脈解離） ① 理学療法評価 ② 画像所見（CT），血圧管理，大動脈解離の分類（Stanford 分類），治療（保存療法，人工血管置換術） ③ 保存療法ならびに手術療法後の理学療法 a. 運動療法（運動負荷，中止基準，術後急性期の運動療法） b. ADL 指導 c. 運動指導	2	2				
					○	
				○		
					○	
5) 動脈疾患（高血圧，閉塞性動脈硬化症，Buerger 病） ① 理学療法評価 ② 医学的所見（ABI，Fontain 分類），治療（薬物療法，経皮的血管形成術，人工血管バイパス術，切断） ③ 理学療法 a. 運動療法（運動負荷，中止基準） b. 運動指導	2	2				
					○	
				○		
					○	
6) 静脈疾患（深部静脈血栓症） ① 理学療法評価 ② 医学的所見（血管エコー），薬物療法，予防 ③ 理学療法施行時のリスク管理	1	2				
					○	
				○		
					○	
7) 不整脈 ① 心電図のみかた ② 不整脈の種類と運動療法施行時のリスク管理	2					
				○		
				○		
8) 運動処方 ① 運動負荷試験（6 分間歩行試験または心肺運動負荷試験） ② 運動処方作成	1	2				
					○	
					○	
9) 再発予防とチーム医療	1					
10) リスク管理（心肺蘇生法（BLS））	1	2		○		
<代謝>						
1) 代謝障害と運動療法	1			○		
2) エネルギー消費量	0.5			○		

3) 運動強度と運動プログラム	1			○		
4) 糖尿病の治療と運動療法	5.5	10				
① 理学療法評価					○	
② 医学的・理学的所見				○		
a. 生化学データ						
b. 薬物療法						
c. 食事療法						
③ 低血糖のリスク管理				○		
④ 運動療法					○	
a. エネルギー消費量						
b. 運動強度と運動プログラム						
c. 合併症予防・維持						
5) 癌とリハビリテーション	4	8				
① 理学療法評価					○	
② 画像所見と生化学データ				○		
③ 終末期ケアと疼痛対策			○			
④ 理学療法					○	
a. 機能維持						
b. 基本動作・移動動作練習						
c. ADL 指導						
6) 終末期ケアと疼痛対策	0.5		○			
7) 内部障害の認定, 社会保障制度	0.5		○			
8) 患者教育	0.5			○		
9) 肥満, やせの判定	0.5					○
10) 体力テスト	0.5	1				○
11) BORG 指数	0.5	1				○
自己学習項目で特記すべきもの			到達レベル			
			キーワード認識レベル	知識獲得レベル	臨床実習要補助レベル	臨床実習見守りレベル
1) なし						

科目名		地域理学療法学				
授業形態（単位(時間)数）講義 3 単位		講義（3 単位(45h)）＋自己学習(90h)				
一般目標：地域で生活している高齢者・障害者・障害児の生活自立支援に向けて、理学療法士による専門的介入について学ぶ。						
授業内学習項目	時間数		到達レベル			
	講義	演習 ・ 実習	キーワード認識レベル	知識獲得レベル	臨床実習要補助レベル	臨床実習見守りレベル
1) 地域リハビリテーションの概念	3	0		○		
2) 対象者のとらえ方（高齢者・障害者・障害児）	2	0		○		
3) 制度と関連法規（介護保険等）	2	0		○		
4) 地域における社会資源	2	0		○		
5) 他職種との協働	2	0		○		
6) 地域での連携（関連機関）	2	0		○		
7) 要介護認定とケアマネジメント	2	0		○		
8) 介護予防と障害予防	2	0		○		
9) 施設における理学療法（入院・入所）	2	0		○		
10) 訪問理学療法	2	0		○		
11) 通所理学療法	2	0		○		
12) 健康状態の評価とリスク管理	2	0		○		
13) 健康増進	2	0		○		
14) 特定疾患の評価と介入方法	2	0		○		
15) 在宅医療にかかる知識（摂食嚥下・胃瘻・IVH・人工呼吸器・褥瘡）	2	0		○		
16) 住環境評価と住環境整備（住宅改修）	3	0		○		
17) 福祉用具（歩行補助具・車いす・移乗機器・日常生活用具・環境制御装置）	3	0		○		
18) ポジショニングとシーティング	2	0		○		
19) 動作指導と介助方法の指導	3	0		○		
20) 症例紹介（施設・在宅・終末期）	3	0		○		
自己学習項目で特記すべきもの			到達レベル			
			キーワード認識レベル	知識獲得レベル	臨床実習要補助レベル	臨床実習見守りレベル
1) 地域の社会資源調査			○			
2) 自宅のバリアチェック			○			